

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第27回）

小学2年生の教科書開発、進行中！

今年に入って本格的に開始された小学2年生の教科書開発は、現在、最初の段階である教科カリキュラム・アウトライン（初等教育5年間の全体概要と小学2年生の部分の詳細）の最終化に入っています。各CDTは、連日、同アウトラインの内容について教科別カリキュラム委員会（SWC）の座長を含めたメンバーの先生方と話し合いをもち、あと一歩で完成ということです。

このカリキュラム・アウトラインは今月末に国家カリキュラム委員会（NCC）に提出し、承認を得ることになっています。

参議院 ODA 調査団、CREATE を視察



2月21日（火）午前9時、日本の参議院 ODA 調査団のメンバー7名（古賀之士議員、三宅伸吾議員、岩井茂樹議員、竹谷とし子議員、山添拓議員、大山尚参議院首席調査員、鈴木友紀参議院文教科科学委員会調査室）が CREATE の視察に来られました。同調査団は、日本の ODA 現場を実際に見て、その現状をよりよく理解することが目的で、ミャンマーに先立ち、すでにカンボジアとシンガポールを訪問されたとのことです。CREATE への訪問はわずか1時間でしたので、最初にミャンマー教育分野及び CREATE の概要を簡単にお話した後、CDT が行っている教科書開発の現場を見学していただきました。

調査団の皆さんは短時間ながらも非常に熱心に CDT の作業現場を見学していただき、その際、いろいろな質問が出されました。ご参考までに、主要な質問を以下に書き添えておきます。なお、時間の関係で作業現場を見て頂いた教科は、算数、道徳公民、ライフスキル、図工のみでした。

- 「新しい算数の教科書で最も変わるの何か？」（算数）
- 「教科書は子どもの手元に届く重要なものであるが、その記述が正確であるかどうかのチェックはどのように行っているのか？」（算数）

- ・ 「(ミャンマーの教育は) 僧院教育にルーツがあるとのことだが、道徳教育も仏教に基づいているのか？」(道徳公民)
- ・ 「道徳公民では宗教についてどのように教えているのか？」(道徳公民)
- ・ 「道徳公民の教科書開発で一番難しいことは何か？」(道徳公民)
- ・ 「ライフスキルとは何を学ぶ教科なのか？」(ライフスキル)
- ・ 「(防災教育において) 日本ではハード面の防災を進めてきたが、財源が不足し避難訓練等のソフトが大事になってきている。参考にしてほしい」(ライフスキル)
- ・ 「色の名前などは何年生から学習するのか？」(図工)
- ・ 「道具や材料は児童が負担するのか？」(図工)

なお、同調査団はネピドーの教育省も訪問されるのでしたので、CREATE で開発された教科書は児童の学習にとっても有用であるということと共に、小学校 1 年生では配布されないと決まった教科の教科書についても小学 2 年生以降については、ぜひとも配布を検討してほしいことを教育大臣に伝えていただけたということでした。



ミャンマーの学校についてのお話

ミャンマーの学校は、日本の学校と違い、例えば、「高校」は Grade 1 から Grade 11 までの教育課程を提供しており、「中学校」は Grade 1 から Grade 9 までの課程を提供しています。日本で言うところの、小中高併設校がミャンマーでは「高校」と呼ばれ、小中併設校が「中学校」と呼ばれているのです。私は、このミャンマー独特の学校形態がいつ頃からどのようにして出現したのか、とても興味があり、時間のある時にいろいろな史料を調べていました。そして、ようやくその答が見つかりました。

ご存じのように、ミャンマーは 1834 年から 1947 年までイギリスの植民地下に置かれていました。もちろん、その間の 1942 年から 45 年までは日本統治下に置かれたことは、皆さん、ご存じの通りです。このイギリス植民地時代にミャンマーにおいて近代学校が生まれたのですが、その当時はまだ現在の日本に見られるような学校形態でした。すなわち、小学校は 1 年生から 4 年生まで、中学校は 5 年生から 7 年生まで、高校は 8 年生から 10 年生までを教える学校だったのです。しかし、そのほとんどが私立学校でしたので自由に学校運営ができたこともあって、ミャンマー社会の教育に対する意識の高まりと共に小学校の卒業後、引き続き学習を希望する生徒を受け入れる学校が登場するようになりました。いわゆる「ポスト・プライマリー学校」と呼ばれる学校で、こうした学校があちこちに見られるようになりました。

ミャンマーの独立後、1950 年に大規模な教育改革が実施され、すべての学校は公立学校になりましたが、その際、この「ポスト・プライマリー学校」が近隣の小学校に接收され、「中学校」、あるいは「高校」に昇格されました。こうして、現在ミャンマーで見られるような独特の学校形態が出現したのです。

以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）

編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）